

2018年6月5日

ジャカルタジャパンクラブ
会員各位

ジャカルタジャパンクラブ
海外邦人安全対策連絡協議会

最近の政治情勢・治安情勢

1) 5月13日、東ジャワ州スラバヤにおいて3つの教会を狙った同時自爆テロが発生し、犯人6名を含む18名が死亡した。本事案は小さな子供を巻き込んだ家族単位での自爆テロであり、過去にも例がほぼ無いことから、インドネシア国内のみならず世界中の注目を集めた。

2) 6月4日、リアウ大学内で卒業生や学生による爆弾製造が報道された。テロ情勢については、5月中旬からは小康状態だが、依然として予断を許さない状況。

3) ラマダン時期は、イスラム教徒にとって信仰心が刺激される時期であり、比例してテロ活動が活性化する時期でもある。インドネシア国内でテロ対象となるのは治安機関、特に警察署や警察官だが、最近では教会などの宗教施設も対象になっている。特に用事が無い限り、警察施設等に近づかないようにすること。また、教会などの宗教施設などへの出入りも注意すること。

(領事部から補足)

警察官を狙ったテロとして、昨年5月にもトランスジャカルタのカンプン・ムラク駅で爆弾テロが発生した。1度目の爆発が発生し、警察官が確認のため近寄ったところ、2度目の爆発が発生し、警察官が被害に遭った。

邦人に関わる最近の事件・事故報告

1) 4月22日午前7時頃、中央ジャカルタのアパートで、訪問者を装った男性が女性宅に押し入る事件が発生。驚いた女性が悲鳴を上げたところ、アパートの住人が駆けつけて犯人は逃走。その後、逮捕されている。最近では、邦人も宅配サービスなどを利用するケースがあるが、家を特定されるリスクがあるため、受け取りはロビーで行うなどの注意が必要である。

2) 4月中旬、北ジャカルタのホテルで、セーフティボックスに現金20万円を入れていたところ、窃盗される事件が発生。同ホテルは外資系で知名度も高いホテルだったが、セーフティボックスは非常用の鍵があれば誰でも解錠が可能のため、過信しないことが重要である。

出席者からの補足

通常のホテルのセーフティボックスは、建具と一緒に壁に固定されているケースが多い。しかし、ホテルも一括購入しているため、同じボックスが置かれているケースが多く、建具に据え付けられていない場合は、隣の部屋のボックスと入れ替えられているケースも散見される。建具にすえつけられているか確

認が必要。

3) 4月末、JCCのイベント会場で、邦人のスリ被害が発生。かばん内の現金・カードが入った財布を窃取された。ラマダン時期は窃盗などの事件が多くなるため注意が必要。また、当地銀行のクレジットカードは盗難補償が無い場合が多いため、注意すること。

4) 4月29日、ジャカルタ市内において、短期旅行者へのひったくりが発生。バイクに乗った男性に財布とスマホをひたかれた。

5) 5月19日、邦人がスカルノハッタ空港内でパスポートケースを拾い、係員へ届け出たところ、持ち主であるインドネシア人が現れ、同ケースに入っていた現金とスマートフォンが無いと騒ぎ出した。拾った邦人に容疑がかかり、警察から取り調べを受けるも、その後スマートフォンは空港内で発見される。現金については邦人が300ドルを支払って解決する。

6) 5月26日午後4時頃、南ジャカルタ市内のショッピングセンター（ガンダリアシティモール）内でスリ事件が発生。インドネシア人男性が棚から商品を落とし、邦人女性が拾う手伝いをしたところ、背後にいた女性にかばんの中から現金やクレジットカードの入った財布を盗まれた。当時は、トートバックを所持していたものの、ジッパーがついておらず、財布などが見える状態であった。

本件は、被害者の意識をそらした隙に犯行を行う典型的なスリ事案である。被害者もラマダン時期は窃盗やスリが多発することを十分に認識しており、トートバックは抱きかかえるようにしていたが、口が開いており、且つ注意をそらされたため被害にあってしまった。

(領事部からの補足)

1) 「在留届」の登録をお願いしたい。旅券法に基づき、3か月以上外国に滞在する場合は登録が義務付けられている。義務ということではなく、ご自身、ご家族、社員の安全のために届出をお願いしたい。オンライン登録も可能である。また、3～4月は離着任の時期であったため、社内でも徹底をお願いしたい。

2) 「たびレジ」への登録もお願いしたい。ジャカルタ、スラバヤ、メダン、マカッサル、バリなどの大使館、総領事館は、迅速に確実な情報が提供できるように心がけている。簡易登録の方法もあり、2、3分で登録は可能。出張や旅行などで海外に出る際にも登録をお願いしたい。

3) テロ事案以外では、在イスラエル米大使館のエルサレム転移に伴いインドネシアでもデモが起こっている。イスラム教徒においては関心の高い事項であるため、アメリカ大使館周辺などに行く際には注意が必要。

4) ジョグジャカルタのムラピ山が水蒸気爆発を繰り返しており、5月21日、警戒レベルが「注意」に上がった。引き続き注視していきたい。

5) 5月31日、外務省が、海外在留邦人数・進出日系企業数の調査結果を発表した。邦人数は、国別ではインドネシアは全世界で14位。永住者の除くと12位。インドネシア全体の邦人数は、19,717人。前年比2.1%増。405人増。8年連続で最多更新となる。

大使館管轄では、15,460人。前年比3.4%増。503人増。特に東部ジャカルタ地域になるブカシでは、顕著な増加傾向が見られる。

インドネシアへの進出日系企業数は1,911拠点(社)。前年比5.6%増。101社増。大使館管轄では、1,653拠点(社)。前年比6.6%増。103社増。

6) 在外選挙登録出国時申請が可能になり、海外への転出届の提出の際に同時に登録が出来るようになった。今まで規定されていた3か月の在留要件が無くなったため、大幅に手続きの期間が短縮されることになる。大使館でも引き続き申請を受け付けている。

最近の医療事情など

先月は子供の手足口病の感染症数が増えている。デング熱は、時期とすると減る時期だが、まだ減っていない状況。2、3月の海安協でも説明したが、麻疹は、インドネシア、ベトナム、インド等に滞在した出張者等が日本へ持ち込むことが多い。1980年代から90年代生まれの20～40歳の世代は麻疹の抗体が不十分なことが多いため、MRワクチンの追加接種を勧めている。

参加者からの報告

1) スラバヤのテロ以降、日系企業において爆弾処理班が駆けつける事案があった。そこで働く従業員のバイクの後部座席に、2~30cm四方のリード線が引いてあるボックスがあったため。特段の被害は無かった。

しかし同社では、従業員が通常ではない(異常な)行動を取った場合などは、報告するように教育することが徹底され、警備の見直しのきっかけになった。

同事件はカメラに従業員が映っていたため犯人が判明。

2) ホテルの部屋まで使用できるアクセスカードのコピー機が販売されており、ホテル内も注意が必要。貴重品を置いたままにしがちだが、気をつけるべきである。ホテルスタッフは、掃除などのため全ての部屋に入れるアクセスカードを所持しているので、注意が必要である。

3) 日本からカリマンタン島への出張者があり、パスポートを紛失した。警察へ届けて紛失証明書をもたらったため、ジャカルタへのフライトは問題ないかと考えていたが、ガルーダ航空からはイミグレに行くように指示があった。本来であれば紛失証明書があれば搭乗可能なのだが、最終的には、イミグレ職員がジャカルタまで同行される事案が発生した。地方都市ではこのような事案が発生することも有り得るので、注意が必要。

4-1) 5月7日、不審者対応の非難訓練を行った。2次非難場所として設置しているセーフティボックス

スを活用した訓練。

同セーフティボックスの課題は、トイレや逃げ遅れた人間への対応。

4-2) 5月31日、登校時に高速入り口で投石があった。警察や管理会社に確認してもらっているが、地域の子供による犯行。子供に被害は無かった。無作為犯行であり JJS を狙ったわけではない。

領事部より補足

1) 8月18日から始まるアジア競技大会に向けて、関連情報の収集を行っている。ジャカルタ・パレンバンの治安情勢等について、今後情報共有していきたい。

2) 一昨年前にダッカで邦人が被害に遭ったテロは、ラマダン最終週の金曜日の夜にレストランで発生した。ラマダン中は、引き続き行動等に十分に注意し、気をつけて過ごしていただきたい。

3) 来月の海安協は、7月10日に実施予定だが、2015年に当地で発生した邦人女性殺害事件の被害女性のご両親がご来訪され、ご講演をしていただく予定。ご家族はご自身が遭われた辛いご経験を共有することで、当地在留邦人の安全の一助となればと願っておられる。

以上